

各種素材別耐薬品性能一覧

ポリカーボネイト・PC

：全くあるいはほとんど影響がない。

：なるべく使用しないほうがよい。

：若干の影響はあるが条件により十分使用に耐える。×：大きく影響があるため、使用に適さない。

	薬品名	濃度重量%・温度	
無機酸	亜硫酸	10・RT	—
	塩酸	10・RT	—
	塩酸	20・RT	—
	塩酸	20・80	—
	塩酸	38・RT	—
	王水		×
	過塩素酸		
	クロム酸	2・70	
	クロム酸	5・70	
	クロム酸	10・70	
	クロム酸	25・70	×
	クロロスルホン酸		×
	酸洗液	硝酸20% + フッ酸4%	
	酸洗液	硫酸40% + 硝酸15%	
	次亜塩素酸		—
	シアン化水素酸		
	臭化水素酸	20・RT	
	臭化水素酸	20・70	
	臭化水素酸	37・RT	
	硝酸	10・RT	
	硝酸	10・70	
	硝酸	30・RT	
	硝酸	30・70	×
	硝酸	発煙・RT	×
	硝酸	61.3・RT	×
	炭酸		
	ひ酸		
	ふっ化けい酸		
	ふっ化水素酸	10・RT	
	ふっ化水素酸	20・RT	
	ふっ化水素酸	40・RT	
	ふっ化ほう素酸		
	ほう酸		
	無水ふっ化水素酸		×
	硫酸	10・RT	
硫酸	10・70		
硫酸	30・RT		
硫酸	30・70		
硫酸	98・RT	×	
硫酸	発煙・RT	×	
りん酸	50・RT		
りん酸	50・70		
りん酸	75・RT		
無機アルカリ	アンモニア(無水)		—
	アンモニアガス	冷	—
	アンモニアガス	熱	—
	液体アンモニア		—
	苛性ソーダ(水酸化ナトリウム)	10・RT	
	苛性ソーダ(水酸化ナトリウム)	30・RT	
	苛性ソーダ(水酸化ナトリウム)	30・70	×
	水酸化アンモニウム(アンモニア水)	28%	—
	水酸化カリウム		×
	水酸化カルシウム		
水酸化バリウム			
水酸化マグネシウム			
ヒドラジン		—	
有機溶剤	アクリル酸エチル		
	アクリル酸ブチル		
	アクリロニトリル		—
	アセチレン		
	アセトアミド		—
	アセトアルデヒド		—
	アセト酢酸エチル		×
	アセトフェノン		—
	アセトン		×
	アニリン		—

	薬品名	濃度重量%・温度	
有機溶剤	アノン=シクロヘキサン		—
	アミルアルコール		
	アミルナフタリン		—
	安息香酸ベンジル		—
	イソオクタン		—
	イソブチルアルコール		
	イソプロピルアルコール		
	イソプロピルエーテル		
	エーテル(ジエチルエーテル)		—
	エタノールアミン		
	エチルアルコール(エタノール)		
	エチルエーテル=ジエチルエーテル		—
	エチルセルロース		—
	エチルベンゼン		
	エチレンオキシド		×
	エチレングリコール		
	エチレンクロロヒドリン		×
	エチレンジアミン		
	エピクロロヒドリン		×
	塩化エチル		×
	塩化ベンゼン		—
	塩化メチル		×
	塩素化溶剤		×
	オクチルアルコール		
	オレイン酸		×
	カルビトール		—
	ぎ酸	25・RT	
	ぎ酸	50・RT	
	ぎ酸	90・RT	
	キシレン		×
	クエン酸		
	グリセリン		
	クレゾール		×
	クロロアセトン		×
	クロロトルエン		×
	クロロナフタリン		×
	クロロホルム		×
	ケイ酸エステル		
	けい酸エチル		—
	酢酸	10・RT	
	酢酸	50・RT	
	酢酸	50・70	
	酢酸	100・RT	×
	酢酸アミル		×
	酢酸イソプロピル		×
酢酸エチル		×	
酢酸セルソルブ			
酢酸ブチル		×	
酢酸プロピル			
酢酸メチル		×	
サリチル酸		—	
酸化ジフェニル		—	
ジイソプロピルケトン		×	
ジエチルエーテル			
ジエチルセバケート		—	
四エチル鉛		—	
ジエチレングリコール			
四塩化炭素			
ジオキサン		—	
ジオクチルセバケート		—	
ジオクチルフタレート		—	
シクロヘキサノール			
シクロヘキサノン(アノン)		×	
シクロヘキサン		—	
ジクロロベンゼン		×	

RT:室温

特にことわりのない限り水溶液の濃度は飽和状態です。

耐薬品性一覧表は、あくまでも目安としての参考値ですので、実際のご使用は試験片などによる実用試験でご確認の上ご使用下さい。

